

京都保健会の皆様、お疲れ様です。新型コロナ禍は、5類移行されても、第9波で、職員家族から職員も多く感染してしまう事業所もあり、さらに季節外れのインフルエンザも局地的には同時流行もあり皆さん本当に大変だったと思います。

それにしても本当に暑い夏でしたね。日本でも世界でも観測史上最も暑い夏となってしまいました。熱中症になる方が増え、山火事、大雨、洪水、干ばつなどの異常気象も頻発しています。これは人類の活動による地球温暖化、地球沸騰化が原因とされています。このまま、地球沸騰化が続くと、2070年には、多くの方が+7.5度の環境を経験し、35億人がほぼ住めない状況になるという報告があります。WHOによると気候危機は、最大の健康問題で、熱中症、災害、感染症、メンタルヘルスなど広範囲に影響を与えており、たばこよりも影響は甚大です。私達の孫やひ孫の世代が地球で暮らすためには、2030年までに、2013年比で温室効果ガスを半減し、2050年には実質ゼロにする必要があります。子供や孫に地球を引き継ぐためには、私達の世代に行動する責任があり、その行動は私達の世代にしかできません。人任せでなく、自分ごととして個人、事業所、政府すべてのレベルで一刻も早く対策を始めないと間に合いません。そのため、京都保健会では、エコアクション21推進チームによる提言をまとめ、それらの気候危機対策を確実にするため、2023年度から京都保健会SDGs推進チームを立ち上げました。これから、年に3-4回ニュースを発行して、気候危機に関するトピックスや、希望をもって取り組める気候危機対策、法人事業所の温室効果ガスの推移、各事業所の取り組みを紹介していきますので、よろしくお願いします。

京都保健会SDGs推進委員会 委員長
ふくちやま協立診療所
寺本 敬一

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



～SDGsとは～

SDGs（Sustainable Development Goals）は、国連が採択した17の目標で、2030年までに世界の持続可能な発展を達成するための国際的な取り組みです。

これらの目標は、社会的な平等、教育、健康、清潔な水、クリーンエネルギー、経済成長などの領域をカバーしており、持続可能な未来の構築を支援します。

各国は自国の状況に合わせてこれらの目標に取り組み、貧困の削減や環境保護、平和と協力の促進などを推進します。

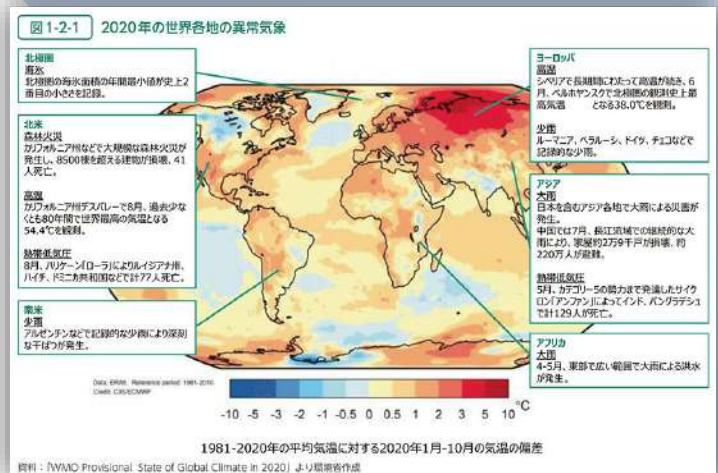
SDGsは、国際的な協力と個人の努力を結集し、より公平で繁栄する世界を築くための架け橋となっています。

仕事場でSDGsに取り組むことは、組織や個人が持続可能な開発に貢献し、社会や環境に対するポジティブな影響を促進することを意味します。

気候変動問題の影響（環境省HPより）

～世界の気象災害等～

気象庁によれば、2020年の世界平均気温は、2016年と並んで観測史上最高となりました。世界気象機関(WMO)の報告によれば、特にシベリアでは長期間にわたって高温が続き、6月にはベルホヤンスクにおいて北極圏の観測史上最高気温(暫定)となる 38.0°C が観測されました。また、米国カリフォルニア州デスバレーでは8月に、過去少なくとも80年間で世界最高の気温となる 54.4°C が観測されました。(図1-2-1)



～日本の気象災害等～

2020年の日本の平均気温は、基準値(1981~2010年の30年平均値)からの偏差が $+0.95^{\circ}\text{C}$ で、1898年の統計開始以降最も高い値となりました。特に2019年から2020年にかけての冬は全国的に暖冬となり、東・西日本で記録的な高温、日本海側で記録的な少雪となりました。また、旬ごとの値として、7月上旬に全国のアメダス地点で観測した降水量の総和及び1時間降水量50ミリ以上の発生回数が、共に1982年以降で最多となりました。この大雨により、球磨川や筑後川、飛騨川、江の川、最上川といった大川での氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水等により、人的被害や物的被害が多く発生しました。また、西日本から東日本の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となり、埼玉県三郷市で竜巻が発生したほか、各地で突風による被害が発生しました。

次回は、気候変動の状況とその影響についてです。

＜各事業所の取組紹介＞

ふくちやま協立診療所では、2020年7月から気候変動対策PJ会議を始動しました。各自役割分担を行い、2ヶ月毎の定例会議で進捗状況を確認しています。2022年度中の成果としては、2022/4福知山健康友の会総会にて、気候危機対策についてのクイズ、2023/3友の会たよりで、食品ロスについての記事掲載を行いました。2023年度は、院内掲示で、気候危機アクションプランやコンポスト導入記を紹介しています。私の他に、看護師さん2名もコンポストを開始されました。意外とコンポスト自体が可愛いと評判です。また、2023/7より福知山健康友の会 リジェネレーション(自然再生)サークルを立ち上げて、隔月で集まり、友の会としてできることについて話し合いをはじめたところです。

(ふくちやま協立診療所 寺本 敬一)

私のコンポスト導入記

ふくちやま協立診療所
寺本 敬一



2ヶ月後も



ハエ、臭いなし

捨てる生ゴミ
半分以下へ

夏は3-5日
で消滅!!

コンポストとは・・・

堆肥もしくは、生ごみ堆肥化容器のことです。
地球沸騰化を止める方法のランキング3位が**菜食主義**で、4位が**食物廃棄削減**となっているように、食との関わりを見直すことが、「再生可能エネルギーの普及」「循環型経済」「環境再生型農業」「生物多様性の回復」とともに「気候危機」を克服するための重要な鍵となっています。“**キエーロ**”は、薬山市在住の松本氏が考案され、土を掘り、埋めるだけの手軽さもあり全国に広がっています。

デメリット

苦手は、卵の殻、玉ねぎの皮で時間はかかる
不可は、骨、貝殻。

冬は、1-2週間かかるとのこと。

手間は、約3分、水とティッシュで手も汚れず
黒土、アリ、団子虫などの微生物に感謝。

“**キエーロ**” 本当におすすめします。

キエーロを作成している丹波市の森林組合を紹介する新聞記事→



＜京都保健会 気候危機アクション・アンケートの紹介＞

京都保健会の職員の皆様の気候危機に対する意識、行動に関するアンケート調査にご協力ください。当委員会の取り組みの有効性も確認していきたいと思っております。

回答締め切り 2023年10月末



<https://forms.gle/dsYzwsbFuV3Jf22R8>